

“越境する文化・還流する文化”連続シンポジウム

第1回シンポジウムで古典芸能としての歌舞伎と戦前から現在にいたるまで大衆的人気を集めてきた宝塚を扱いました。第2回シンポジウムでは“限定性と普遍性：祝祭としてのアイドル”という現代的なテーマを扱います。第2回のシンポジウムでも、第1回のシンポジウムと同様に研究者からの研究発表とアイドル文化にかかわっている実践家の基調報告と座談会を行います。またロボットを用いたアイドルと地元ファンを繋ぐ公開交流実験を行います。このシンポジウムでは、アイドルファン、地元ファン、特定の世代のファンからはじまった日本のアイドル文化が世代や国境を越えてどうやって普遍性を現在獲得しつつあるのかを、専門家と実践家による発表と議論によって解明しようとするものです。専門家としては文化社会学を専門としている2人の研究者から「祝祭としての日本のアイドル」と「アジアにおける日本のアイドルファン」について発表があります。発表者の清家竜介さんは『ももクロ論—水着と棘のコントラディクション』（有楽出版社）を出版され、現在もっとも注目されている日本のアイドル現象を研究している社会学者です。もう1人の発表者の陳怡禎さんは、社会学の大学院生で、『台湾ジャニーズファン研究』（青弓社）を出版し、アジアにおける日本のアイドルファンについての研究の第一人者です。前半の発表の後で、コミュニケーションロボットを用いたアイドルと地元ファンの交流実験を行います。

第2部では、『前田敦子はキリストを越えた—〈宗教〉としてのAKB48』（ちくま新書）を出版されたアイドル評論家であり情報社会学者である濱野智史さん、ケツメイシやファンキーモンキーベイビーズの作曲家であり現在は、Welcome to Japan project の中心人物でオレンジポートをはじめとするご当地アイドルの世界進出を手掛けているYanagimanさん、様々なアイドルのプロデューサーをされている桂田誠さん、某大手芸能事務所関係者をお呼びし、日本のアイドル現象とそれがいかにして世代や国境を越えた普遍性を獲得しつつあるのかという問題について基調報告と座談会を行います。

第2回 “越境する文化・還流する文化”シンポジウム

テーマ：“限定性と普遍性：祝祭としてのアイドル”

会場：埼玉大学・総合研究棟1階・シアター教室及びロビー

総合司会：山崎敬一（埼玉大学教授）

開催日：平成27年11月23日（月・祝日）10時から

<タイムテーブル>

○第1部 アイドル現象の社会学

10:00~11:30 研究報告：アイドル現象の社会学

清家竜介（早稲田大学招聘研究員）

陳怡禎（東京大学大学院生）

11:45~12:15 ロボットを用いたアイドルとファンの公開交流実験

実験出演：オレンジポート、メリンちゃん（埼玉大学キャラクターロボット）

12:15~13:00 休憩

○第2部 シンポジウム“祝祭としてのアイドル”

13:00~14:50 基調報告とインタビュー

Yanagiman（作曲家・音楽プロデューサー）

濱野智史（情報環境研究者&アイドルグループ「PIP」総合プロデューサー）

桂田誠（ArcJewel 総合プロデューサー）

大手芸能事務所関係者

※ インタビュアー：清家竜介、陳怡禎

15:00~17:00 座談会：祝祭としてのアイドル—限定性と普遍性

